

# 代表質問

鳥取県議会自由民主党



広谷 直樹 議員  
選挙区 石美郡

## 激甚化する豪雨災害の対応

**問** 8月15日に最接近した台風7号の被害は風水害対策予算としては過去最大規模になった。老朽化が懸念されるインフラ施設の抜本的な改良復旧への今後の対応は。

**答** 早期の改良復旧について、今、国側と協議をしている。これ以後の災害は、この災害から教訓を得て、総合的な復旧・復興をチャレンジしていくべきと考えている。

## 持続可能な医療提供体制

**問** 自治体病院は、地域が求める医療ニーズと病院経営が両立できない最適解を求める必要があるが。

**答** 少子高齢化の中、自治体病院が果たす役割を視野に入れ、最適解を盛り込んだ保健医療計画づくりにしていきたい。

## 外国人労働者の受入環境

**問** 外国人労働者「特定技能2号（※1）」の対象拡充は、本県産業の人材不足を補う光明である。受入体制の現状と見通しは。

**答** 我々も、従来より踏み込んだ外国人との共生社会づくりをする必要があるのでは。経済界も日本語研修に関わる動きもある。

## 米子ソウル便の定期就航

**問** 定期便の再開にあたり、受入体制の再構築や二次交通対策の現状と取組は。

**答** 宿泊スペースを外国人対応にしたり、翻訳ソフトでの観光紹介体制が整えられた。米子鬼太郎空港からのシャトルバスの運行や、プロモーションの冊子作成など、「おもてなし体制」を整えていく。

## 山陰海岸ジオの再認定審査

**問** 昨年の再認定審査は「2年間の条件付き」だ。来年の完全再認定取得に向けての対応はどうか。

**答** 10月に日本ジオパーク委員会の調査団が来訪する。年明けに、

ユネスコに提出するレポート作成に向けて、成果がまとまるよう精力的に調整を図っていきたい。

## 町道陸上中央線の整備

**問** 昨年から全面通行止めになっている道路整備事業は、県の代行事業で実施予定である。進捗は。

**答** 基礎的な調査を進めながら、過疎代行（※2）の可能性を国と調整している。早く交通開放になるよう県としても努力をしていきたい。

## 酪農業の存続への対応

**問** 将来にわたって酪農経営が成り立つような制度設計を国に要望し、経営危機ともいえる現状に対するの経営支援が必要であるが。

**答** 酪農家の経営が不安定なので、一定の所得補償的な制度の導入を一貫して国に求めている。今後も持続可能な経営になるよう対策を継続してまいりたい。

## 食肉センターの整備

**問** 各地で牛肉の輸出促進の取組が盛んになっている。将来、施設の更新を検討する際、欧米への輸出基準を満たした認定施設を本県と島根県の共同で整備することも選択肢の一つであると思うが。

**答** 施設の整備について関係者で輸出対応を含めて検討をしている。

共同での整備も選択肢の一つであるが、島根県はすでに大規模改修しており、難しいのでは。

## 小規模県立高校の存続

**問** 県立高校は地域の中で担う役割も大きく、再編・統廃合でなく地域外から生徒を呼び込むことを含め、存続させることを前提に、いかに学校の魅力化を図っていくかを優先していくべきと思うが。

**答**（教育長） 統廃合ありきでなく、地域になくってはならない学校、生徒が一定規模の学校の中で切磋琢磨し、様々な意見をぶつけ合い高まっていく高校生の姿がある新たな学校づくりを目指す。

## 誰も取り残さない不登校対策

**問** 不登校の児童生徒が年々増加している。市町村、教育委員会、知事部局が連携を図り、誰一人教育の機会から取り残されることがない体制を整える必要があるが。

**答** フリースクールの応援をしながら、子ども達の居場所として学校に代わる場所というのをも位置付けていく。授業料支援の在り方も関係者ともよく協議する。

**答**（教育長） 教育委員会サイドだけでなし得ることではない。様々な関係機関との連携を深め、取り組む。

(※1) 特定技能2号…長年の実務経験等により身につけた熟達した技能を要する業務に従事する外国人向けの在留資格  
(※2) 過疎代行…基幹的な市町村道や下水道事業の整備について、過疎地域自立促進計画に基づき、県が市町村に代わって行うことができる制度

# 代表質問

会派民主



伊藤 保議員  
選挙区 東伯郡



## 国と地方の協議の場

**問** 地方分権改革については、何度か知事と議論してきたが、国と地方の協議の場については、地方側の要望に基づき開催されるよう、制度面での整備について要望すべきではないか。

**答** 正式な制度面での分科会の活用、それと様々な国、地方の意見交換の場の設定を両面で国に求めていきたい。

## 将来のパンデミックに備えて

**問** 新型コロナウイルス感染症は5類に移行されたが、将来に備え、どこかの時点で総括し、記録を整理することが必要ではないか。

**答** 将来に生かされるものでもあり、総括をし、次の感染症。パンデ

ミックに備える材料、土台とする。国全体の総括と並行して、県独自のやり方で総括させていただく。

## 地方財政の将来

**問** リーマンショック後の危機対応モードから平常モードへ切り替えられた時の骨太方針で、歳出特別枠が大きく削減された苦い経験がある中、令和3年度の骨太方針では、コロナ後の地方財政の在り方が明記されていないが。

**答** 6月の骨太方針では分からないので、一般財源確保を訴えねばならない。年末の予算編成に向け、県として度重ねて働きかける。

## 海面上昇対策

**問** 温暖化等による海面上昇を心配。米国に上陸した強力なハリケーンでは2時間で海水面が3m上昇した。将来の気温上昇を想定し、海岸の浸食対策や内水氾濫対策、高潮による避難対策やハザードマップ追加を検討すべきでは。

**答** 海水面が20cmほど上昇している。IPCC(※)の報告がある。砂浜海岸が6割の本県は深刻な問

題になり得る。海岸保全対策を開係機関と議論していく。

## 水田活用直接支払交付金

**問** 5年に一度は水張りできない水田は畑地と見なされ、転作奨励金の対象外となり、耕作放棄地が増えることが心配。水田活用の水張り問題に対する見解・対策は。

**答** 県内の地域農業再生協議会から懸念の声が寄せられている。現場に影響が大きく、非常に重大な問題であると国に幾度か要望しているが、一度決めたルールの撤回はできないと要望の度に国から回答されている。引き続き国に再度要望していく。

## 二巡目国体に向けた選手強化

**問** わかとり国体では天皇杯、皇后杯を獲得したが、その裏では成年選手の確保等大変な努力があった。しかし今や現実に厳しいものがある中、小・中学生にとっても大きな励みや目標になる少年の選手強化に力を入れるべきでは。

**答** 国民スポーツ大会、障がい者スポーツ大会を地元で開催する意義は、点数を稼ぐだけが目的ではない。真に県民が誇れるような、後々にレガシーが残るような人材育成、スポーツ振興を議論しながら前回とは違った国体の在り方を

模索していきたい。

## 高校の少人数学級化

**問** 高校の本来の目的は生徒の将来の進路希望を叶えてあげること。機械的に卒業させることはあってはならない。安易な学級数削減や学校の統廃合ではなく、少人数学級により生徒一人ひとりに向き合い、生徒の将来に視点を置いた学級定数を検討すべき。

**答** (教育長) 生徒が多様化している、あるいは、特別な支援を要する生徒が増加している中、非常に有益な手段・方法である一方、財政面の課題もある。大きなメリットと課題があり、慎重に誠実に検討してまいりたい。

## 知事の働き方改革

**問** 今の世の中、全てが働き方改革。政治家に働き方改革はなく、働き方改革をしていると落選すると言われる。しかし、知事も年齢的に心配。少し自らの働き方改革をされたほうがいいのでは。

**答** 職員に負担がかからないよう努めてきたが、今後もよく考えていきたい。私も62歳になった。睡眠が取れるように取れないようなところもある。皆さんも、あまりこの行事に出るといけないようにお願いを申し上げたい。

代表質問

一般質問

常任委員会活動

議決結果